

ハイデルベルク信仰問答より

問 118 神は、何を、ご自分に求めよ、と私たちに命じているのですか。

答え 主なるキリストご自身が、私たちにお教えになった祈りの中にまとめられた、魂とからだに必要な一切のものであります。

〔別訳〕

霊的また肉体的に必要なすべてのことです。主キリストは、わたしたちに自ら教えられた祈りの中に、それをまとめておられます。

問 119 主の祈りは、どのような内容のものですか。

答え

天にまします我らの父よ。

願わくは御名をあがめさせたまえ。

御国をきたらせたまえ。

御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を、我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。

我らをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国と力と栄えとは限りなくなんじのものなればなり。

アーメン

「祈りを学ぶ会」としてこの会を続けてきていますが、「主の祈り」の学びこそその本旨を実現するものとなるでしょう。問 117 では「神を喜ばせ、神に聞かれる祈り」とはどんなものであるかについて学びました。祈りにおける大切な姿勢として、①心から求める ②へりくだる ③確信を持つ という三つのポイントがあったことを思い起こしていただけるでしょう。それを受けて問 118 では、「神は何を求めておられるのか」を深掘りしています。神が私たちに求める祈りとは「主の祈り」に要約／凝縮されているというのが答えです。主の祈りには「魂とからだに必要な一切のもの」（霊的また肉体的に必要なすべてのこと）が含まれていると言われています。信仰を持つということは、霊的な事柄だけではなく、肉体の問題にも大いに関わっているということです。「主の祈り」の内容がどのように構成されているかを見ると、そのことがよく分かってくるでしょう。

- I. 父なる神様への呼びかけ：天にまします我らの父よ
- II. 神の栄光を求める三つの祈り
 - ① 願わくは御名をあがめさせたまえ
 - ② 御国をきたらせたまえ
 - ③ 御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ
- III. 子たちの必要を求める三つの願い
 - ① 我らの日用の糧を今日も与えたまえ
 - ② 我らに罪をおかす者を、我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ
 - ③ 我らをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ
- IV. 頌栄：国と力と栄えとは限りなくなんじのものなればなり。アーメン

主の祈りは「祈りの中の祈り」であり、私たちがどう祈ればよいか分からないとき、これを祈れば確実に神の御心に適う祈りとなるものとして、主イエスが教えてくださったものです。主の祈りを心から祈るならば、父なる神様は間違いなくそれを聞き入れてくださるのです。主イエスが「神のひとり子」として弟子たちに教えてくださった祈りであり、ご自分が日頃祈っておられる祈りをギュッとまとめ上げ、弟子たちに「この祈りをベースとして自分の祈りにしてごらん」と示してくださったものです。そこには、私たちが日々祈るべき内容、祈りの中に含めるべき事柄が整然と並べられています。主の祈りを唱えるとき、私たちは主イエスとともに「神の子」としての身分を持って祈っているのです。主イエスを長兄とした「弟」「妹」として、私たちは父なる神様に対し、主イエスと同じように「お父さん」と呼びかけています。その関係は「受け入れられている者」としての親子関係であり、父が子に良くしてあげたいと願っておられるところに入っていく大きな安心感に包まれています。これから学んでいく主の祈りを通して、私たちは「祈りの本質」にふれることになるでしょう。